

株主の皆様へ

第17期中間報告

2013年4月1日～2013年9月30日



Mitsui Chemicals

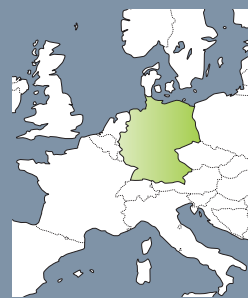


CONTENTS

- 1 トップメッセージ
- 5 特集:三井化学の成長事業
- 7 セグメント別概況
- 9 トピックス
- 10 中間連結財務諸表
- 11 会社の概況・株式の状況/株式事務のお知らせ

当社グループの事業展開 — in ドイツ —

ヨーロッパ中部に位置し、GDP世界第4位の経済大国であるドイツ。古くから産業が栄え、工業や医療技術など多岐にわたり世界を牽引してきました。当社は1990年に現地法人を設立し、マーケティングを行ってまいりました。本年4月にはドイツHeraeus(ヘレウス)社の歯科材料事業を買収し、機能性材料の事業拡大に努めています。



写真はドイツ フランクフルト市街地(右)、Heraeus Kulzer社(左上)、くるみ割り人形(左中)、MITSUI CHEMICALS EUROPE GmbH(左下)

三井化学株式会社

持続的に収益を拡大できる 事業ポートフォリオへの変革を早期に実現します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2013年度上半期は、中国や新興国の景気拡大の鈍化の一方、超円高であった為替の水準調整や個人消費持ち直し等により外部環境は好転しました。このような状況の中で、景気変動の影響を受け難い事業として、当社が強化してきた高機能製品群及び高付加価値ポリマー群の収益が順調に拡大するとともに、コストダウン等の企業体質強化策が進展したことなどにより、前年同期比95億円増の110億円の営業利益を計上することができました。しかしながら、大型市況製品であるフェノール、高純度テレフタル酸、ウレタン原料については、市況が低迷するとともに原料価格高騰の継続により、黒字を確保することができませんでした。下半期については、高機能製品群及び高付加価値ポリマー群は引き続き着実に収益を伸ばし、ウレタン原料についても黒字化を見込んでいるものの、フェノール及び高純度テレフタル酸の市況は依然として厳しい状況が継続することから、営業利益は140億円を見込んでおり、通期としては、営業利益250億円を予想しております。

現中期経営計画は本年度を最終年度としており、2014年度からは新中期経営計画がスタート致します。本年度内に新計画を策定し2014年度より実行に移しますが、その大きな方向性は、現計画のもと実施してきた積極的な成長投資を確実に収益拡大に繋げることに加え、事業ポートフォリオの変革を加速するための戦略を策定・実行していくこととなります。特に大型市況製品の再構築を大胆に実行していくとともに機能製品群の拡大に拍車をかけ、安定的な収益を上げる会社にしていきます。アベノミクスにより国内景気への回復期待が高まってまいりましたが、素材産業である当社を取り巻く環境は依然として予断を許さない状況が続いております。競争力に一層磨きをかけ、また、新製品の開発を急ぎ、「グローバルに存在感のある化学会社」となるべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

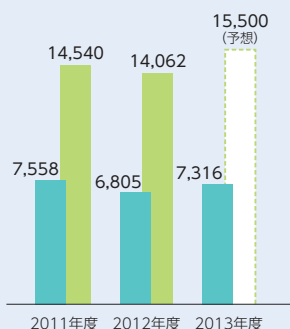
代表取締役社長

田中 稔一

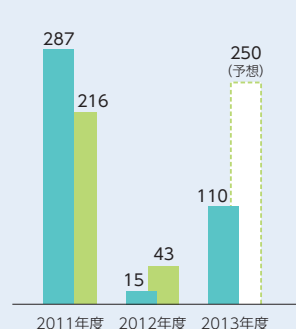


■ 財務ハイライト(連結) (単位:億円) ■ 中間期 ■ 通期 ■ 通期予想

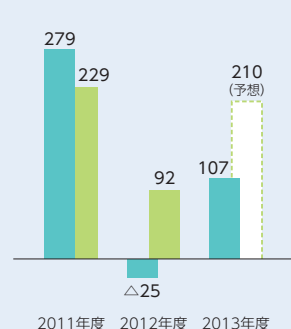
■ 売上高



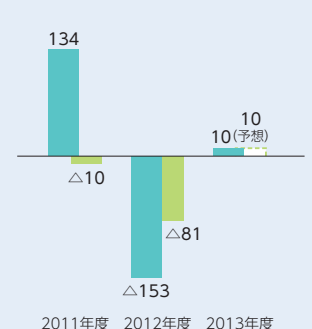
■ 営業利益



■ 経常損益



■ 当期純損益



Q.1

2013年度も半分が経過しました。上半期の業績と下半期の見通しにつきご解説ください。

A.1

上半期は営業利益が前年比7.3倍の110億円となりました。下半期は、同5倍の140億円を計画しています。

2013年度上半期の売上高は、前年比7.5%増の7,316億円、営業利益は同7.3倍となる110億円となりました。半期ベースでは4期ぶりに営業利益で100億円を超え、当初見込みの50億円を大幅に改善しました。セグメント別に見ますと、機能化学品では、メガネレンズ材料及び農薬が海外需要の拡大、紙おむつ用の高機能不織布が国内外の旺盛な需要を受けて順調に収益を拡大しました。また、機能樹脂におきましても、エラストマー、機能性コンパウンド製品が北米等における自動車需要の拡大や円安効果、特殊ポリオレフィンがスマートフォンの伸長や円安効果を受けて順調に収益を拡大しました。石化におきましては、当社が世界トップクラスの供給能力を有する製品である、自動車向けのポリプロピレン(PP)コンパウンドが北米、メキシコを中心とした需要の拡大を受けて順調に収益を拡大しました。一方で、懸案のウレタン、基礎化学品(フェノール、高純度テレフタル酸)については、中国の需要低迷に伴う製品市況回復の遅

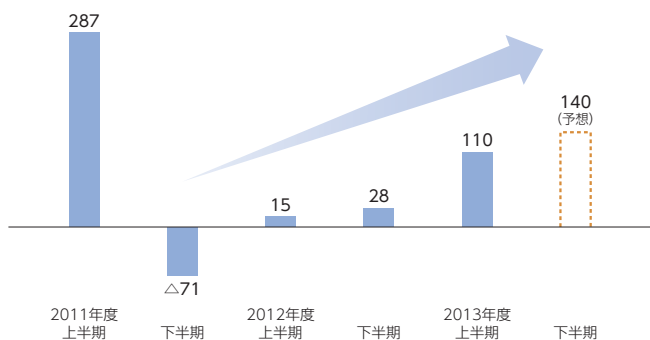
れと原料価格の高騰により、厳しい状況が継続しました。

下半期の見通しにつきましては、営業利益は前年比5倍の140億円を計画しています。機能化学品、機能樹脂、石化は、上半期に引き続き、順調に収益を拡大する見込みであり、ウレタンにつきましても、需給バランスの改善とコストダウンにより下半期は黒字化を見込んでいます。一方で、基礎化学品は、依然として原料価格が高騰していること、製品市況の大幅な回復が見込み難いことから、下半期も厳しい状況が継続する見通しにあります。

以上より、上半期と合計した2013年度通期では、営業利益は250億円を見込んでおり、5月10日に発表した通期業績予想280億円から30億円の下方修正と致しました。今後は、不採算事業の抜本的な構造改革及び徹底的なコストダウンを推進するとともに、機能性材料のさらなる事業拡大により、収益の拡大に全力で取り組んでまいります。

なお、本年度の配当につきましては、中間は1株あたり3円と致しました。株主の皆様への配当は経営としての最重要課題であると十分に認識していますが、大型市況製品のフェノール、高純度テレフタル酸の事業環境が依然として不透明であることから、期末については未定とさせていただきます。今後、収益改善に懸命に取り組み、株主の皆様のご期待に報いられるよう努力してまいります。

■ 営業利益 半期推移 (単位: 億円)



Q.2

2013年度は中期経営計画の最終年度ですが、事業ポートフォリオ変革の進捗状況をお聞かせください。

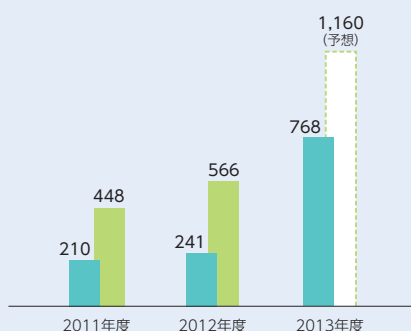
A.2

高機能製品群は、安定した市場成長による収益の拡大が見込まれています。高付加価値ポリマー群は、グローバル展開の進展により収益が拡大しています。

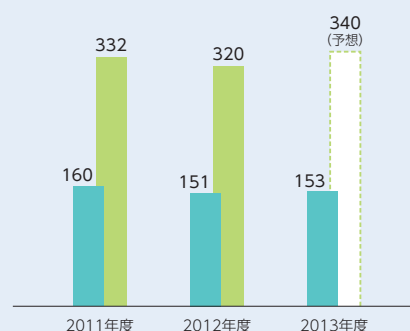
事業ポートフォリオ変革を一層加速するために、5-5-5戦略(5つの重点事業、5つの世界トップ事業、育成5領域)のうち、①高機能製品群、②高付加価値ポリマー群の重点強

■ 主要指標(連結) (単位: 億円)

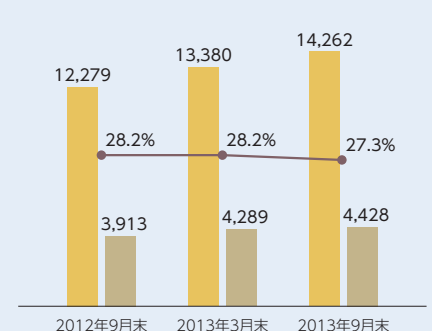
■ 設備投資額



■ 研究開発費



■ 総資産・純資産・自己資本比率



*金額は億円未満四捨五入により表示しております。

化分野に経営資源を集中させるとともにフェノール・チエーン製品群の抜本的構造改革を進めています。

▶ **高機能製品群**

メガネレンズ材料、歯科材料、高機能不織布等のヘルスケア材料や農業が主な事業であり、健康・高齢化や環境・食糧確保等の社会的ニーズに対応し、安定した市場成長により収益の拡大を見込んでいます。世界トップのメガネレンズ材料に関しましては、2012年度に、コーティング材を展開する子会社SDC社の拠点をシンガポールに新設したほか、中～高屈折率分野を得意とする韓国のKOC Solution社を買収し、トップの座をさらに強化致しました。グローバルに安定して成長する歯科材料に関しましては、本年度上半期に、550億円を投入し、22カ国に拠点を有する世界第6位のドイツHeraeus社の歯科材料事業を買収するとともに、最新の3Dプリンターで入れ歯ビジネスを展開する米国DENTCA社の買収を行いました。これらの買収は、今後シナジー効果を上げ、当社の収益拡大に大きく貢献していくものと考えています。紙おむつ用の高機能不織布に関しましては、旺盛な需要拡大が継続している中国で新規製造設備が完工し、今後収益拡大に大きく寄与する見込みです。これにより、アジアにおける3極体制を構築し、アジアトップメーカーとし

ての地位を強固なものにしていきます。農業におきましては、2011年度に資本参加したタイ、ブラジルの農業会社を拠点に、成長が見込まれるアジア市場や南米市場での販売拡大を推進しています。また、東南アジアでの拡販のため、タイに研究拠点を設置し、さらなる事業拡大を図ってまいります。

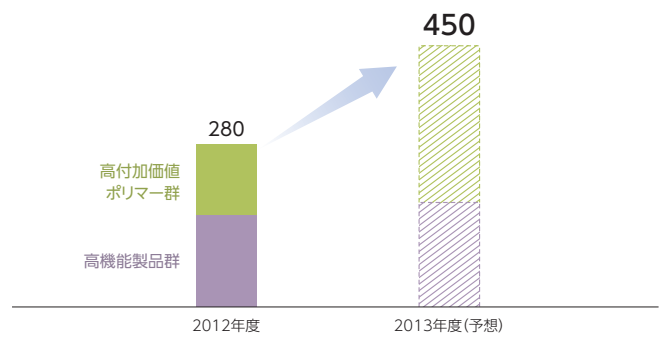
▶ **高付加価値ポリマー群**

自動車向けのPPコンパウンド、エラストマー、高性能ポリエチレンが主な事業であり、いずれも当社独自の技術をベースとする高機能化によりグローバル展開が進展し、収益を順調に拡大しています。特にPPコンパウンドに関しましては、8カ国に拠点があり、世界トップクラスの生産能力を有しています。北米等での自動車需要の拡大を受け、北米、メキシコでのさらなる増強を計画しており、これらの増強完了により、2014年度末には名実ともに世界トップの地位を獲得致します。エラストマーに関しましては、シンガポールにおいて、プラスチックの耐衝撃性を向上させる「タフマー®」の生産能力増強を行ったほか、中国において需要が拡大する自動車向け高機能ゴムEPTや接着性樹脂「アドマー®」の製造設備建設を進めています。また、強度、透明性に優れ食品の包装材に使用される当社独自の高性能ポリエチレン「エポリュー®」の新鋭大型製造設備をシンガポールにて建設中です。



DENTCA社との調印式

■ 重点強化分野の営業利益 (単位: 億円)



重点強化分野の進捗状況

当社は高機能製品群・高付加価値ポリマー群に経営資源を集中させ、事業ポートフォリオ変革を図っています。2013年度の進捗につきご報告致します。

高機能製品群

- メガネレンズ材料**
 - SDC Technologies シンガポール拠点開所 (2013年10月)
- 歯科材料**
 - Heraeus社 歯科材料事業買収 (2013年6月)
 - DENTCA社買収 (2013年6月)



このように事業ポートフォリオ変革に向けての施策は国内外で順調に進展しており、高機能製品群、高付加価値ポリマー群の営業利益は、2012年度の280億円から本年度で450億円に拡大する見込みです。

▶フェノール・チェーン製品群等の再構築

フェノール・チェーン製品群のほか、高純度テレフタル酸、ウレタン原料の大型市況製品については、グループ一丸となって再構築に取り組んでいます。原料の安価・安定調達、地産地消化、他社との提携も視野に入れた最適生産体制による大幅な構造改善策を年度内を目途に策定し、2014年度より実行すべく鋭意検討を進めています。また、石化事業のうち、高密度ポリエチレン、ポリプロピレンに関しましては、不採算の製造設備それぞれ1系列を停止し、収益改善を図りました。

Q.3

事業ポートフォリオ変革に向けた今後の予定、次期の中期計画についてはいかがでしょうか。

A.3

自動車、食糧・医療・環境といった分野を中心に収益拡大を図ってまいります。

現在の中期経営計画における取組みの進捗については、前述のとおりです。成長のための大型投資の意思決定はほぼ一巡していますが、それぞれの案件はいずれも順調に進捗しています。

現在の中期経営計画は本年度を最終年度としています。この3年間で、事業買収も含め1,300億円を超える投融資を決定してきましたが、このうちの約9割が注力している高機能製品群と高付加価値ポリマー群への投資です。今後はこれらの成長投資が収穫期に入ってまいります。これらのリターンにより、2、3年後には、200～300億円の収益拡大を



目指してまいります。また、高機能製品群、高付加価値ポリマー群は自動車、食糧・医療・環境といった今後世界的に安定的な需要拡大が見込まれる分野を対象にした事業であり、これらの事業を強化・拡大することにより、事業ポートフォリオ変革を実現してまいります。以上の戦略を加速するために新中計を現在策定中であり、2014年度から確実に実行してまいります。

Q.4

最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A.4

当社は、景気に左右されない事業ポートフォリオへの変革をさらに加速し、企業価値の増大を図ってまいります。

今まで述べてまいりましたとおり、当社が現中計期間中に強化してきた高機能製品群及び高付加価値ポリマー群は、2013年度においても着実に収益を拡大させています。加えて、これまで進めてきた戦略投資がいよいよ利益を生み出す段階に入っていることから、今後大きく収益を拡大してまいります。また、当社最大の懸案である大型市況製品については、抜本的な構造改善に全力を挙げてまいります。グループ一丸のこうした努力により、景気に左右されない事業ポートフォリオへの変革をさらに加速し、当社企業価値の増大を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

高付加価値ポリマー群

高機能不織布

高機能不織布製造設備完工 (2013年10月)



PPコンパウンド

PPコンパウンド生産能力増強 (2013年10月。追加増強中)
PPコンパウンド生産能力増強 (2013年10月。追加増強中)



エラストマー

タフマー® 生産能力増強完工
EPT製造設備建設中
アドマー® 製造設備建設中



高性能ポリエチレン

エポリュー® 製造設備着工 (2013年5月)
高機能包装フィルムT.U.X® 製造設備完工 (2013年9月)



バイオリオール

バイオリオール製造の合併会社設立 (2013年10月)



三井化学の成長事業

三井化学グループは、グローバルに存在感のある化学会社となるべく、事業の強化を進めています。今回は、環境面や健康面から社会的な課題解決が求められ、需要拡大が期待される分野から自動車材料、ヘルスケア材料をピックアップして当社の事業を紹介します。



Automotive Materials 自動車材料

低燃費化・軽量化の技術で
グローバルに事業を加速。

ポリプロピレン(PP)コンパウンド

世界8拠点で製造。

生産能力増強、拠点新設によりグローバルトップへ

PPコンパウンドは、成形しやすく、軽く、耐熱性、耐衝撃性に優れており、自動車の軽量化、工程短縮に貢献しています。北米や新興国を中心とした自動車需要の拡大に伴い、当社では、現在世界8極に製造拠点を有し、生産能力の増強を進めています。現在北米での増強を終え、さらなる増強によりグローバルトップを目指します。

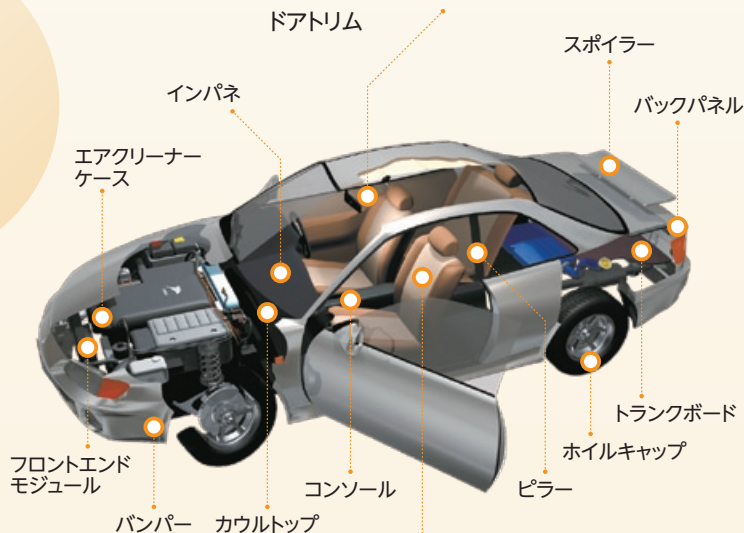


ドアトリム

PP関連新技術

強度と軽量化を両立する
金属・樹脂一体成形技術

当社は、大成プラス(株)と共同で、発泡PPをアルミニウムで挟んだ高強度の軽量化部材を開発しました。射出成形により複雑形状の部材が生産でき、アルミの厚さも鉄板の約3分の1に減ることに加え、発泡倍率を高めたPPを用いることで軽量化が可能となったほか、断熱、防音、制振効果も期待できます。自動車のフレームやピラー、ドア用部材への利用が見込まれます。



バイオポリオール

非可食植物由来のポリウレタン原料の
製造会社をインドに設立

自動車のシートクッションにはウレタンが用いられています。当社は石油でなく非可食植物由来のひまし油からウレタン原料(バイオポリオール)を製造することで地球環境保全に貢献する取組みを進めています。本年10月、伊藤製油(株)、インドのJayant Agro-Organics社との合併により、バイオポリオールを製造する会社をインドに設立致しました。2015年に営業運転を開始する予定であり、石油由来のポリオールと同等のコスト競争力のある製品供給が可能となります。



シートクッション



Healthcare

ヘルスケア材料

世界の高齢化に向けて
事業拡大。

歯科材料

安定した需要、先進国を中心とした高齢化により、
今後大きな成長を期待

当社は、ドイツHeraeus社の歯科材料事業を買収することを決定し、本年6月末に事業譲受を完了しました。また、CAD/CAMシステム、3Dプリンターの最先端技術を用いた入れ歯の開発を行っている米国DENTCA社の株式も66.0%取得致しました。

これらの一連の買収により、当社は、プラスチック化と世界的な高齢化を背景に安定した需要が見込まれる歯科材料市場における事業展開を加速し、世界的な地位の確立を目指します。



Heraeus Kulzer社



DENTCA社

ビジョンケア材料

プラスチックメガネレンズ材料事業の拡大戦略

プラスチックレンズの需要はグローバルに大幅な需要拡大が見込まれています。当社は、これまでの事業買収により、汎用品から屈折率の高い高付加価値品まで幅広いレンジのレンズ材料を取り揃えているほか、表面コーティングによる豊富なアプリケーションの提供も可能にしています。世界のトップシェアを背景に、地域や用途に応じた市場ニーズに対応するとともに、さらなる機能の向上に挑戦し、事業拡大に取り組んでいます。



KOC Solution社

高機能不織布

加速するアジアの不織布ニーズに対応

経済発展、高齢化により東・東南アジアの紙おむつ市場は、需要増大・高品質化が見込まれています。当社は、衛生材料用不織布事業の強化・拡大に取り組んでおり、2013年10月には中国における高機能不織布製造設備が完工しています。これにより、アジアにおける3極体制(日本、タイ、中国)を構築するとともに、さらなる設備増強も視野に入れ、衛生材料用不織布のアジアトップメーカーとしての地位を強固なものにしていまいます。



中国に新設した工場

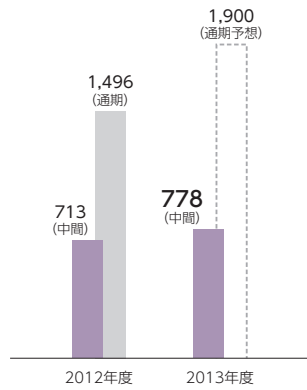
セグメント別概況

機能化学品

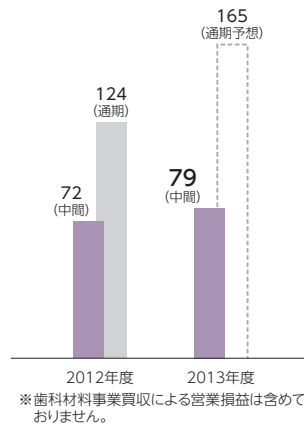
11%



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



主な事業

- ヘルスケア材料
- 衛生材料
- 特殊ガス
- 化成品
- 触媒
- 農業

概況

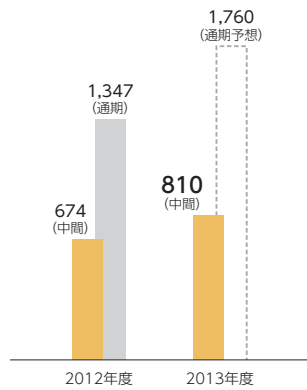
海外需要の拡大のためメガネレンズ材料、農業が伸長したこと、国内外の紙おむつ需要の拡大のため不織布が伸長したことにより、順調に収益を拡大しております。

機能樹脂

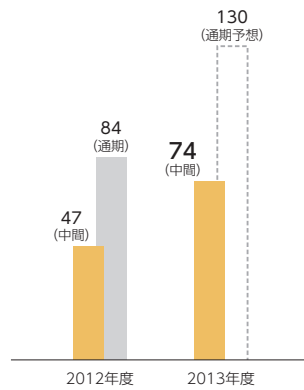
11%



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



主な事業

- エラストマー
- 機能性コンパウンド
- 特殊ポリオレフィン

概況

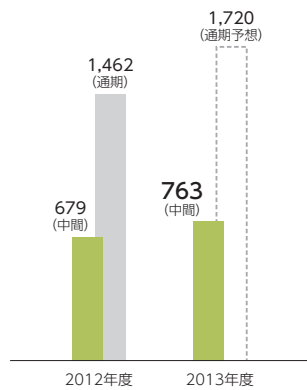
自動車用途の需要拡大に伴い、エラストマー、機能性コンパウンドが好調に推移致しました。また、スマートフォンの好調を背景に、「アペル®」等を中心とした機能性ポリオレフィン製品も好調に推移しております。

ウレタン

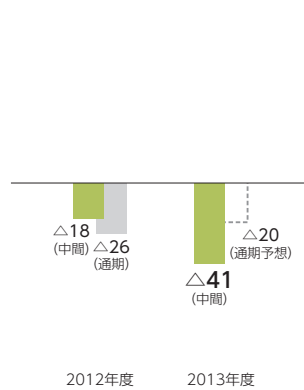
10%



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



主な事業

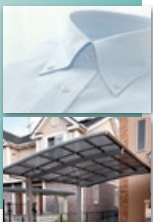
- ポリウレタン材料
- コーティング材料
- 接着材料
- 成形材料

概況

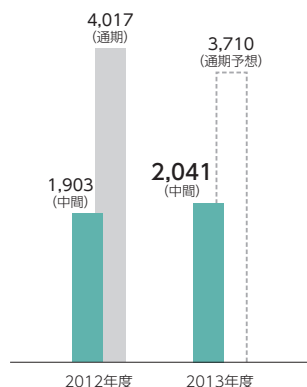
ポリウレタン材料のTDIIにつきまして、主要用途である家具向けの低調で中国における市況低迷が継続したこと及び原燃料価格が上昇したことにより、厳しい状況となりました。

基礎化学品

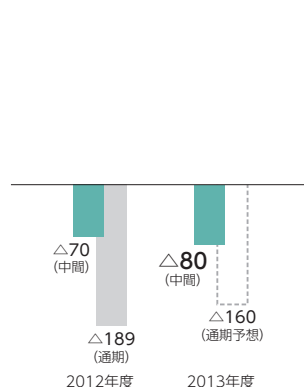
28%



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



主な事業

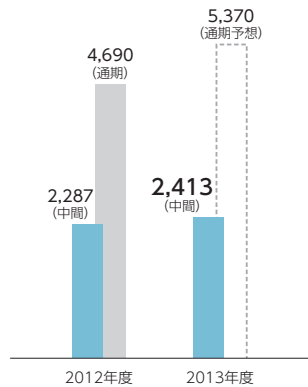
- フェノール
- ビスフェノールA
- 高純度テレフタル酸 (PTA)
- ペット樹脂
- エチレンオキシド及びその誘導品

概況

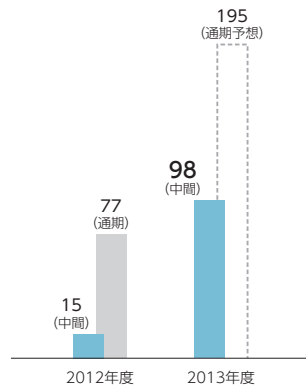
フェノール、PTA等につきましては、中国市況が依然として低迷しており、加えて中国内需の成長鈍化、欧州向け輸出の不振、供給過剰の継続を背景に厳しい状況となりました。



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)

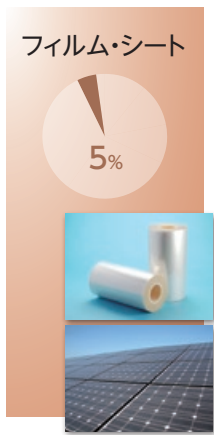


主な事業

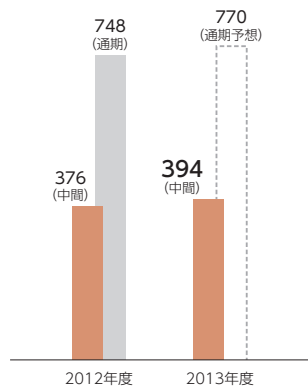
- エチレン及びプロピレン
- ポリエチレン
- ポリプロピレン

概況

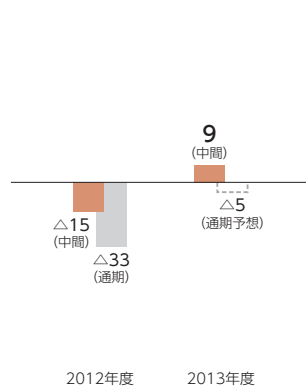
総じて堅調に推移致しました。ナフサクラッカーが、当初予想の稼働率80%を上回って稼働したほか、特に北米の自動車生産台数の増加等により、海外のPPコンパウンド事業も堅調に拡大致しました。



売上高 (単位: 億円)



営業損益 (単位: 億円)



主な事業

- 包装フィルム
- 電子・光学用フィルム
- 太陽電池用シート

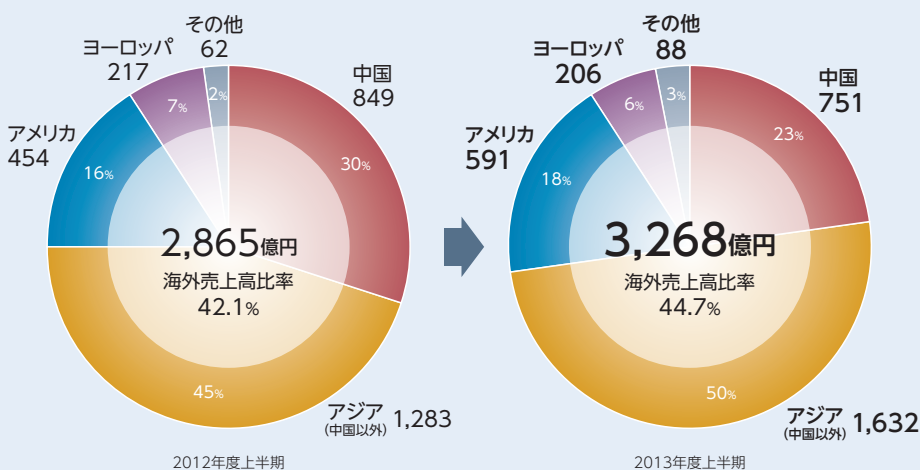
概況

包装フィルムが価格改定の効果により堅調に推移したほか、産業用フィルムもスマートフォン向け高付加価値分野の需要拡大により、堅調に推移致しました。

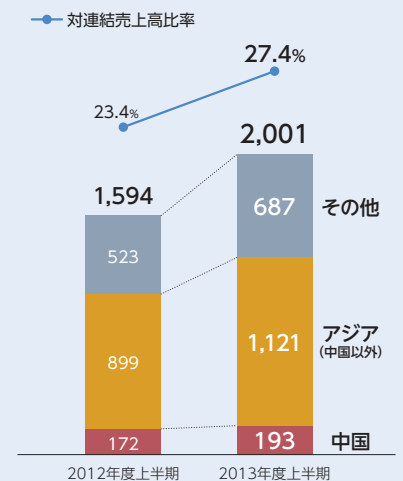
海外売上高

当社の海外売上高は2013年度上半期で3,268億円となりました。前年同期と比較すると、約400億円(14%)の拡大で、連結売上高に占める比率も約45%となり、グローバル化は着実に進んでおります。特に海外拠点における売上高が伸びていることが大きく寄与しています。

海外売上高(海外拠点売上高+輸出売上高) (単位: 億円)



海外拠点売上高 (単位: 億円)



*金額は億円未満四捨五入により表示しております。

RSV(レスベラトロール)

ヤマブドウを用いた機能性化粧品原料を開発

当社子会社の北海道三井化学は、北海道産ヤマブドウの細胞を培養して抽出したレスベラトロール(RSV)含有の機能性化粧品原料を開発しました。従来、RSVは色素を取り除くことが難しく、化粧品での展開は限定的でしたが、独自の植物細胞培養技術等により、世界で初めて着色性のないRSVの開発に成功しました。

また、植物細胞培養技術によるため、植物の大量採取も必要なく、生物多様性への配慮につながる点も特長の一つです。

2014年度の上市を目指し、クリームや乳液、ローションなど化粧品用途へのサンプル提供を進めてまいります。



RSV含有の機能性化粧品原料

RSVとは?

ポリフェノール的一种で、ワインやぶどうなどに多く含まれる抗酸化物質です。高いアンチエイジング機能があり、メタボ予防にも効果があると言われています。



ヤマブドウの実



培養中の植物細胞

健康経営格付

DBJ健康経営格付で特別表彰、 日化協レスポンシブル・ケア賞も受賞

当社は、(株)日本政策投資銀行(DBJ)より「DBJ健康経営(ヘルスマネジメント)格付」融資で最高ランク(特別表彰)を取得しました。今回の受賞は、メタボリック症候群改善への取り組みや全社員のストレス調査と改善策の実施などの活動が評価されたものです。

また、日本化学工業協会第7回レスポンシブル・ケア賞も受賞しました。メンタルヘルス不調者等への個人別対応だけでなく、職場のコミュニケーション向上など、全社的にメンタルヘルス増進計画を継続実施していることが評価されました。

当社は今後とも、やりがいのある仕事と充実した私生活との調和を目指し、ワークライフバランスを推進するとともに、グループ社員の健康増進活動に取り組んでまいります。



DBJ健康経営格付授賞式

産業医からのコメント

当社では労働衛生規則を制定し「社員の健康は、会社の健康に直結する」という理念のもとに、社員の「健康」を当社の重要な経営課題と位置づけています。単なる「健康づくり」ではなく、「労働衛生」の一環として捉え、経営層が課題、方策をしっかりと理解、承認したうえで、我々産業医を中心に健康管理室が仕組みをつくって組織的に実行しています。

2008年度以降、疾病休業日数は大幅に減少して

おり、メンタルヘルス不調による休業も減少傾向にあります。健康増進活動としてヘルシーマイレージ合戦やフィットネス教室を、メンタルヘルス対策として個別の対応のみならず職場ストレス調査に基づく職場改善などを実施し、社員個人及び組織へのアプローチを推進しています。

これからも、一層取り組みを充実させ、会社の健康を築いていきたいと考えています。



健康管理室 統括産業医
土肥誠太郎

中間連結財務諸表

連結貸借対照表

連結貸借対照表				単位:億円			
科 目	2013年3月末	2013年9月末	増減	科 目	2013年3月末	2013年9月末	増減
流動資産	7,154	7,290	136	流動負債	4,939	5,474	535
現金預金	465	701	236	有利子負債	1,858	2,504	646
受取手形・売掛金	2,984	2,726	△258	その他	3,081	2,970	△111
棚卸資産	2,846	2,911	65	固定負債	4,152	4,360	208
その他	859	952	93	有利子負債	3,214	3,385	171
固定資産	6,226	6,972	746	その他	938	975	37
有形固定資産	4,466	4,572	106	負債合計	9,091	9,834	743
建物・構築物	1,065	1,071	6	株主資本	3,823	3,803	△20
機械装置・運搬具	1,440	1,485	45	資本金	1,251	1,251	0
土地	1,642	1,646	4	資本剰余金	910	910	0
その他	319	370	51	利益剰余金	1,805	1,785	△20
無形固定資産	146	659	513	自己株式	△143	△143	0
投資その他の資産	1,613	1,741	128	その他の包括利益累計額	△55	89	144
投資有価証券	983	1,087	104	少数株主持分	521	536	15
その他	630	654	24	純資産合計	4,289	4,428	139
資産合計 …… 4	13,380	14,262	882	負債純資産合計	13,380	14,262	882

連結損益計算書

連結損益計算書				単位:億円			
科 目	2012年 4~9月決算	2013年 4~9月決算	増減	科 目	2012年 4~9月決算	2013年 4~9月決算	増減
売上高 …… 1	6,805	7,316	511	営業活動によるキャッシュ・フロー	190	345	155
営業費用	6,790	7,206	416	投資活動によるキャッシュ・フロー …… 5	△284	△799	△515
営業利益 …… 2	15	110	95	財務活動によるキャッシュ・フロー	△11	680	691
営業外収益	43	55	12	その他	5	14	9
営業外費用	83	58	△25	現預金等増減	△100	240	340
経常損益	△25	107	132				
特別利益	4	0	△4				
特別損失	94	24	△70				
税金等調整前四半期純損益	△115	83	198				
法人税等	37	48	11				
少数株主損益調整前四半期純損益	△152	35	187				
少数株主利益	1	25	24				
四半期純損益 …… 3	△153	10	163				

連結キャッシュ・フロー計算書

連結キャッシュ・フロー計算書				単位:億円			
科 目	2012年 4~9月決算	2013年 4~9月決算	増減	科 目	2012年 4~9月決算	2013年 4~9月決算	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	190	345	155	投資活動によるキャッシュ・フロー …… 5	△284	△799	△515
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11	680	691	財務活動によるキャッシュ・フロー	△11	680	691
その他	5	14	9	その他	5	14	9
現預金等増減	△100	240	340	現預金等増減	△100	240	340

連結包括利益計算書

連結包括利益計算書				単位:億円			
科 目	2012年 4~9月決算	2013年 4~9月決算	増減	科 目	2012年 4~9月決算	2013年 4~9月決算	増減
少数株主損益調整前四半期純損益	△152	35	187	少数株主損益調整前四半期純損益	△152	35	187
その他の包括利益	△26	154	180	その他の包括利益	△26	154	180
四半期包括利益	△178	189	367	四半期包括利益	△178	189	367
(内訳)				(内訳)			
親会社株主に係る四半期包括利益	△183	154	337	親会社株主に係る四半期包括利益	△183	154	337
少数株主に係る四半期包括利益	5	35	30	少数株主に係る四半期包括利益	5	35	30

POINT

1 売上高

石化・基礎化学品において、販売数量減少の影響があったものの、ナフサなどの原燃料価格上昇や円安効果による販売価格の改定及び機能樹脂において円安効果による販売価格の上昇などがあり、売上高は増加しました。

2 営業利益

石化の交易条件が改善したことや、機能樹脂における販売数量が増加したことなどにより営業利益は増加しました。

3 四半期純損益

営業利益・経常利益で黒字を確保し、四半期純利益も前年の赤字から黒字に転換しました。

4 資産合計

ドイツHeraeus社の歯科材料事業の譲り受けにより、総資産は増加しました。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー

ドイツHeraeus社の歯科材料事業の譲り受けにより、投資キャッシュ・フローは増加しました。

会社の概況・株式の状況

■ 会社の概況 (2013年9月30日現在)

商号 三井化学株式会社
 本店所在地 東京都港区東新橋一丁目5番2号
 資本金 125,053,116,199円
 創立 1997年10月1日
 従業員数 14,431人(連結)

■ 役員 (2013年9月30日現在)

取締役

取締役会長 藤吉建二
 (代)取締役社長執行役員 田中稔一
 (代)取締役副社長執行役員 大村康二
 (代)取締役副社長執行役員 越部実
 取締役専務執行役員 淡輪敏
 取締役常務執行役員 武野氏悦夫
 取締役常務執行役員 諫山滋
 取締役常務執行役員 久保雅晴
 社外取締役 永井多恵子
 社外取締役 鈴木芳夫

監査役

常勤監査役 岩淵 滋
 常勤監査役 古賀義徳
 社外監査役 門脇英晴
 社外監査役 松田博
 社外監査役 関根 攻

(注) (代):代表取締役 (※):執行役員待遇嘱託

執行役員

(※)常務執行役員 大多和 保彦
 常務執行役員 鮎川 彰雄
 (※)執行役員 藤田 照典
 執行役員 村山 巖
 執行役員 植木 健治
 (※)執行役員 那和 保志
 執行役員 池田 俊治
 執行役員 森田 壮平
 執行役員 田崎 幹雄
 執行役員 生坂 敏行
 執行役員 小川 伸二
 執行役員 市村 彰浩
 執行役員 和功
 執行役員 永松 茂樹
 執行役員 松尾 英喜
 執行役員 飯田 司
 執行役員 福田 伸二
 執行役員 志手 啓二
 執行役員 石丸 裕康
 執行役員 西山 泰倫
 執行役員 三沢 晃
 (※)執行役員 マーティン ハーゼ

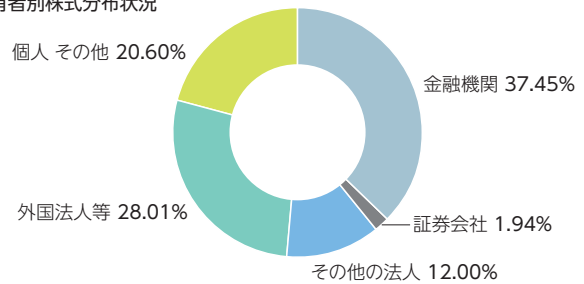
■ 株式の状況 (2013年9月30日現在)

発行可能株式総数 3,000,000,000株
 発行済株式総数 1,022,020,076株
 株主総数 84,679人
 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	63,602	6.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	57,339	5.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・東レ株式会社退職給付信託口)	37,425	3.66
三井物産株式会社	34,740	3.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	23,275	2.27
株式会社三井住友銀行	21,946	2.14
JP MORGAN CHASE BANK 380055	21,551	2.10
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT	20,405	1.99
三井住友海上火災保険株式会社	16,403	1.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	13,977	1.36

(注)当社は、20,501,411株の自己株式を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

所有者別株式分布状況

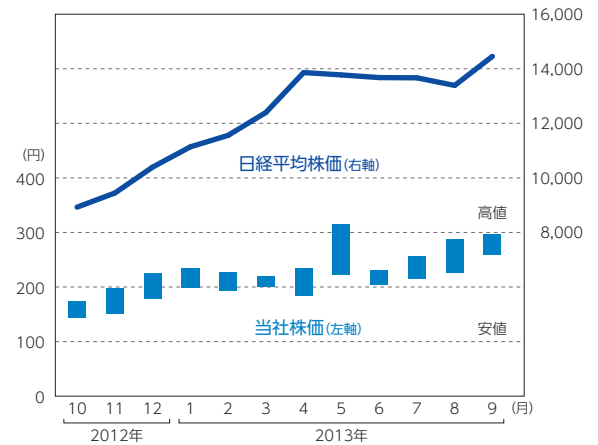


(注)「個人その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.00%)が含まれております。

株式事務のお知らせ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当受領株主確定日 3月31日
 中間配当受領株主確定日 9月30日
 基準日 定時株主総会については、3月31日
 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
 定時株主総会 6月
 公告方法 電子公告
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 (郵便物送付先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話お問合せ先) フリーダイヤル 0120-782-031
 同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店
 単元株式数 1,000株
 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部【証券コード:4183】

株価推移



IRサイトのご案内

決算短信など最新の企業情報につきましては、
 当社IRサイトでご覧いただけます。

三井化学 IR



<http://jp.mitsuichem.com/ir/>



※本資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。



〒105-7117 東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター
 TEL 03-6253-2100 FAX 03-6253-4245 URL <http://jp.mitsuichem.com/>

